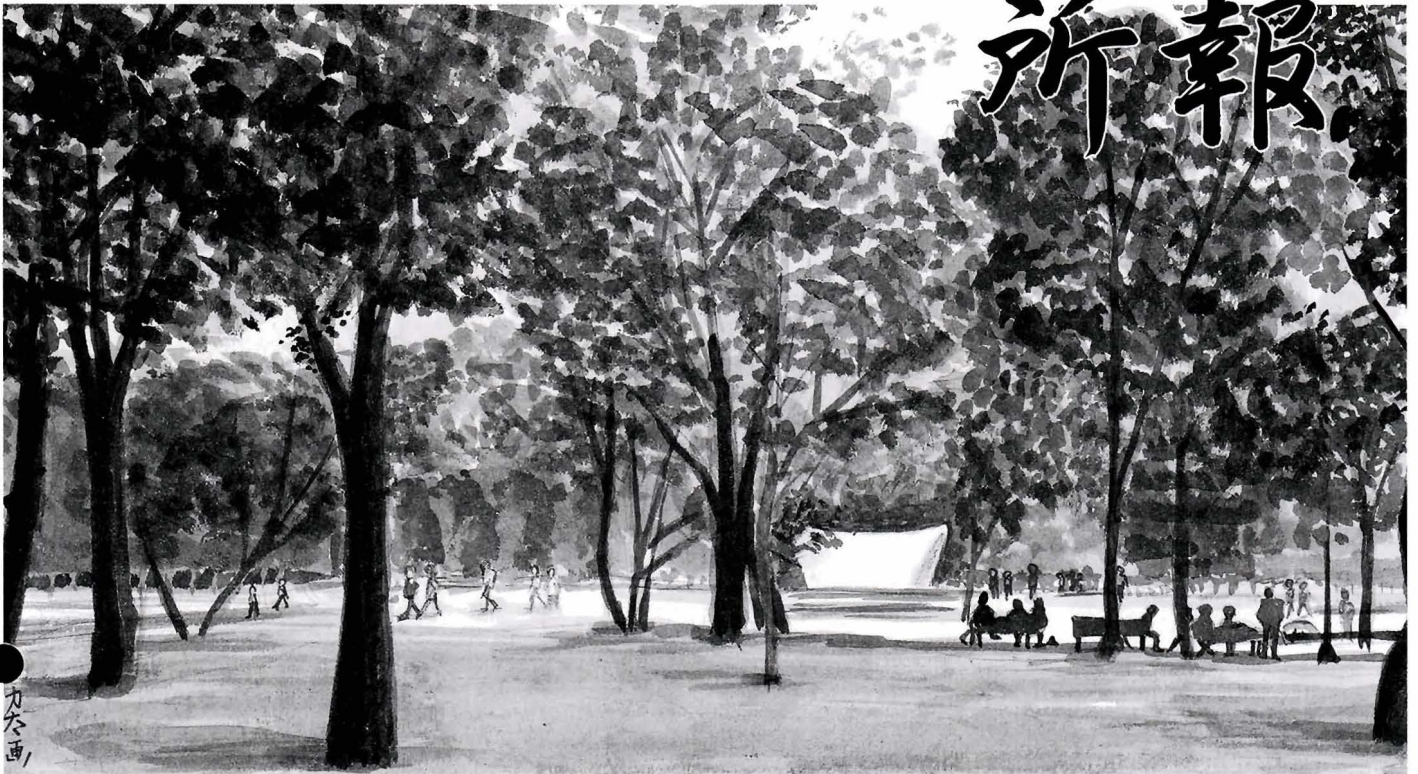


所報



力大画



平成11年11月

「生きる力」の育成をめざす教育課程編成の基本

お茶の水女子大学教授 無藤 隆

生きる力とは、社会に出て役立つ力であり、社会において自らを向上させていくのに有効な力である。中学校を出て就職する子どもは少ないのだから、上級学校に学ぶのに必要な力も含む。だが、上級学校に進学することに終わるのでなく、生涯を見通しての力の育成が必要になる。

基本となる技能や知識の習得が必要なことは言うまでもない。だが、単に試験の成績がよいことが問題ではない。実際の問題解決や高度な問題解決において有効に働くものであるべきなのである。そのためには、身に付いたものとならなければならない。問題の解決を進めるたびに、何年も前に習ったことに戻って思い出そうと試みるようでは使い物にならない。十分に習熟しておかねばならないのである。だが同時に、暗記すればよいのではない。問題解決の中で必要に応じて使いこなせねばならないのである。試験に出る英単語式の覚え方は、試験に出る限りで出来るというだけのことだ。そうではなく、英語を実地に使う場で英単語が出てこなければならない。暗記は必要だが、同時に、現実の文脈と状況での使用が不可欠である。

だから、基礎となる技能や知識をきちんと習熟させる努力がいる。どの子どもも確実に習得できるようにすべきだ。内容の厳選とは、その努力を現実のものとするためにこそ行われた。

同時に、現実の技能・知識の使用の場面に出会う必要がある。それは単なる応用問題では不足である。算数で分数を習ったところで分数を使いそうな応用問題をやるだけでは、やらないよりはずっと定着も応用もよくなるにしても、所詮、現実に出会う問題を解くこととはほど遠い。世の中の人々が真剣に考え取り組んでいる事柄、そして確かに取り組まねばならないと子どもにも実感できる問題に子どもが出会い、そこで、基礎として習得した、またこれから習得しようとすることを使うことを通して初めて、役立つものとして身に付いたものとなる。子どもの切実な問題と、世の中の人々にとっての真剣な課題と、それらを結びつけつつ、そこに教科での基礎的な技能・知識・発想を絡ませていくところに、「総合的な学習の時間」のカリキュラム編成の核がある。

もくじ

- 研究成果の紹介 P. 2, P. 3
- 本年度進めている研究の紹介 P. 4
- 教育関係資料の紹介, 研究発表大会のお礼... P. 5

- 教育実践のアイデア P. 6, P. 7
- 教育センターひろば P. 8

小学校・中学校・高等学校

子どもの問題行動の要因に関する調査研究

— 社会的スキル，耐性，規範意識，自己肯定感，自己決定力に視点を当てて —

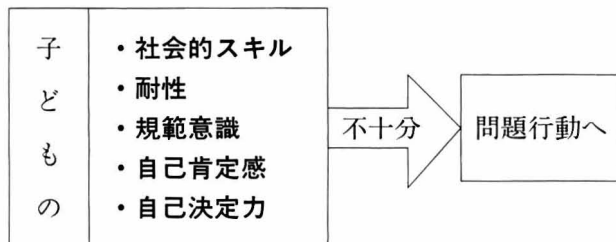
研究成果

広島市教育センター主任指導主事 砂原 文男
指導主事 三原 裕隆

現在、暴力行為，性的逸脱行動など，子どもたちをめぐり，様々な問題行動の増加が課題となっています。

本研究では，これらの問題行動の要因となるであろう因子について実態調査を行い，何が援助として大切になるのか明らかにしようとしてきました。

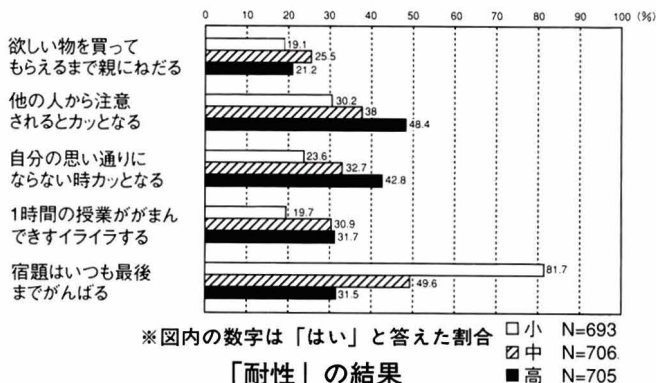
1 問題行動の要因と考えられるもの



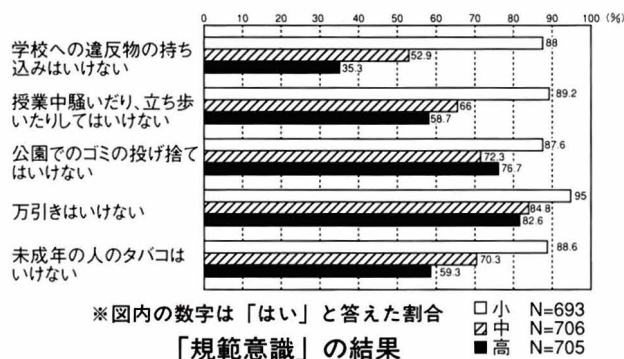
この五つの因子について，広島市立学校の小学生，中学生，高校生を対象に意識調査を実施しました。

2 子どもの意識の実態

ここでは，「耐性」と「規範意識」の調査結果について見ていきます。



小，中，高になるにつれて，他の人に注意されたときや自分の思い通りにならないときに「カッとなる」という割合が高くなっています。逆に，「宿題」に対するがんばりについては，低くなっています。

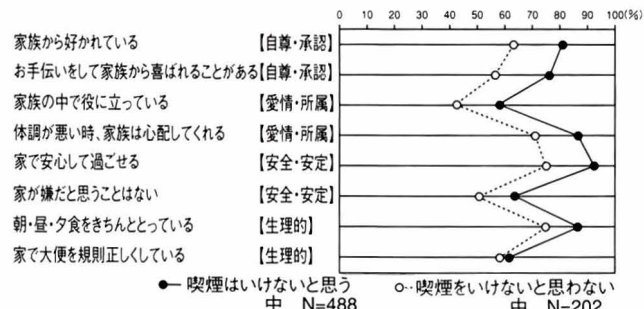


※図内の数字は「はい」と答えた割合
「規範意識」の結果
ほとんどの項目で，小，中，高になるにつれて「いけない」という意識が低くなっています。

3 問題行動の要因と欲求の充足との関係

マズロー(A.H.Maslow 1908～1970)は，人間の自己実現に向けて，「生理的欲求」「安全・安定の欲求」「愛情・所属の欲求」「自尊・承認の欲求」の充足することの重要性を唱えています。このことを踏まえて，問題行動の要因の項目と欲求充足の項目との関係を調べてみました。

次の図は，「未成年の喫煙に関する意識」と家庭における「欲求充足」との関係について，中学生の結果を示したものです。



「未成年の喫煙に関する意識」と「欲求の充足」との関係

「喫煙はいけないと思う」子どもは，「喫煙はいけないと思わない」子どもに比べて，各欲求の充足の割合が高いことが分かります。このように，子どもの規範意識を高めるためには，各欲求を充足していくことが重要であることが分かります。

※ 詳細は，教育センター研究紀要第19号をご覧ください。

中学校

総合的な学習の時間における学びの自立を促す教師の支援に関する研究

—学び方に視点を当てて—

前広島市教育センター主任指導主事 福原 正明
 広島市教育センター指導主事 森下 幸子
 指導主事 藤村 和彦

総合的な学習の時間は、教科等の学習の時間と同様に、子どもたちが生涯にわたって自立して学び続けるために必要な力を育むことを目指しています。

本研究では、自立に向かうための学び方とは何か、また、教師はどのような支援を行えばよいかについて探りました。

1 総合的な学習の時間の学び方と支援のポイント

総合的な学習の時間では、生徒が自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決していくことができるような学び方を身に付けることが大切です。その方法として、「探究」があります。

「探究」をしていくためには、次の2点を大切にする必要があります。

ポイント1 「探究」の過程を大切にさせる

- ① 何となく問題を感じているがそれがまだはっきりしないことを意識する
- ② とりあえず、なんとなく感じていることを問題にしてみる
- ③ その問題について仮説を立て推理してみる
- ④ 仮説のとおりいかどうか観察、実験、調査などをして確かめる

……ここでうまくいかないときは、何が問題なのかも一度よく考えて、新たに問題をつくります。問題がはっきりするまで②～④を何度か繰り返します……

- ⑤ 問題がはっきりしたら、それについて、最終的に仮説を立て、検証する
- ⑥ ①～⑤の過程で、分かったこと、発見したこと、まだ分からないことなどのまとめを通して、自分がやったことやそこで得た知識を自分のものにしていく

教師は生徒一人一人に応じて、対話を通して、①～⑥のような「探究」が促されるよう指導・助言・支援をしていきます。

ポイント2 振り返りを大切にさせる

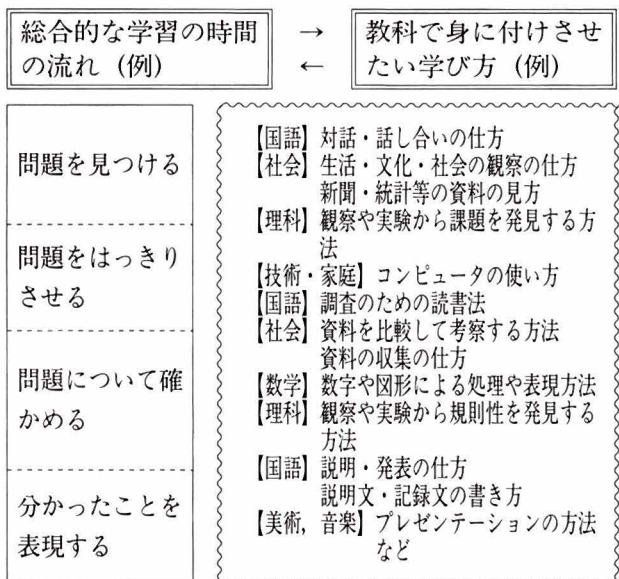
自分が「探究」しようとする問題のおもしろさは何か、何がどうなれば問題が解決する計画になっているか、検証に十分な資料が集められているかなどについて、各過程で振り返ってみることによって、生徒は自分で自分の学び方を獲得していきます。

また、「探究」していく過程で、自分はこのことについて考えていると楽しくなるとか、自分の感じ方は他の人とはずいぶん違うんだとか、自分でもやればやっただけのことはできるから、次はこんなことに挑戦してみようなどと生徒は考えるようになります。

教師は、「探究」の各過程で振り返りの時間を設定し、生徒が何を振り返るのかについてできるだけ掌握することが大切です。

2 総合的な学習の時間に必要な、各教科で身に付けさせたい学び方

総合的な学習に必要な各教科の学び方を見極め、各教科では、その力をつけていくことが大切です。



※ 詳細は、教育センター研究紀要第19号をご覧ください。

本年度、教育センターの指導主事が行っている研究の紹介をします。

研究 の 紹介

教育課題の解決に役立つ
研究をめざして進めています



学習指導

「教師としての自分探しの旅」

—授業リフレクションを通して—

担当：尾形 慎治・森下 幸子・藤村 和彦

子どもが授業の中で分かっている、学んでいるという姿を、教師はどのようにとらえているのでしょうか。そもそも「わかる」、「学ぶ」ということは子どもにとってどういうことなのでしょう。そして、その学びを促しているものは何なのでしょう。

そこで、授業中の子どもの表情、姿勢、発言など子どもの学びの営みを見つめることを通して教師が自分自身の授業を振り返る視点を探っていきます。

生徒指導

「学級経営の充実に関する調査研究」

担当：名和原 恵理・砂原 文男・木村 正信・首藤 龍磨

学級で何かをしようとしても集団としての活動をしようとし、人の話を聞こうとしない、教室を飛び出し入ってこようとしないなど、授業や学級の崩れが問題となっています。なぜ、こうした現象が起こるのでしょうか。

そこで、学級の機能や学級の魅力に対する子どもの意識を調査し、現在の子どもたちの状況を踏まえた学級経営等を探ります。

教育課題

「小・中学校におけるインターネットの教育利用に関する研究」

担当：松浦 俊雄・神津 住男・前田 憲壯

平成10年度に告示された新学習指導要領では、情報通信ネットワークの活用が学習活動として位置付けられることになりました。

本研究では、インターネットを活用した学習指導の在り方やその指導のための教職員の研修体制の在り方、また、学校が情報を発信するに当たっての基本的な考え方、さらに、教育情報データベースをどう構築していくかという四つの課題について環境整備を含めて研究を進めています。

学校経営

「広島市における学校経営の現状と課題に関する調査研究」

担当：永岡 敏彦・吉竹 邦昭

変化の激しい次代を担う子どもたちに「生きる力」を育てるために、これまでの学校観を転換し、特色ある教育・学校づくりが今求められています。それぞれの学校が自己責任、自己決定によって学校経営をしていく時代の到来です。

そこで、まず現在の学校経営の実態を調査し、どのような課題があるのか、そして、その課題を克服し特色ある教育・学校づくりを進めるにはどのような方策が必要なのかを探ります。

教育調査

「子どもたちから見た教育環境への認識から、その教育的影響を探る調査研究」

担当：板敷 憲政・井坂 雅浩

人間形成に影響を及ぼす教育環境を、子どもたちはどのようにとらえているか、全国12の指定都市の子どもたちを対象にして実施した意識調査をもとに、人・空間・時間・情報の四つの側面から分析・考察しています。本年度中に、出版する予定です。

教育関係資料の紹介

教育センターでは、各学校における教育活動を支援するため、教育情報を計画的に収集、整備しております。昨年度末から今年度当初に購入した「総合的な学習」に関する図書等を紹介します。

総合的な学習に関する図書等

【書名】	編著者名	（発行所）
『子どもが求め、追究する総合学習』	平野 朝久	（学芸図書）
『「総合的な学習」の実践と新しい評価法』	佐藤 真	（学事出版）
『「総合的な学習」の実践アイデア集① 国際理解・情報・人権編』	藤川 大祐	（学事出版）
『「総合的な学習」の実践アイデア集② 環境・福祉・健康編』	藤川 大祐	（学事出版）
『総合的な学習の実践』	梶田 叡一	（金子書房）
『中学校こうしてつくった総合学習』	新井 郁男	（教育開発研究所）
『小学校総合的な学習ガイドブック』	児島 邦宏	（教育出版）
『総合学習・選択学習の展開』	洪澤 文隆 他	（教育出版）
『教育の流れを変える総合的な学習』	児島 邦宏	（ぎょうせい）
『21世紀の学校はこうなる 生きる力を育てる 「うたせ学習－総合的な学習」』	千葉県立打瀬小学校	（国土社）
『個のよさが生きる総合学習の展開』	東京学芸大学教育学部 附属世田谷小学校	（東洋館出版社）
『生活科・総合的な学習 〈学び・自分・地域からのアプローチ〉』	新潟県大湊小学校	（東洋館出版社）
『実践総合的な学習の時間（中学校編）』	高階 玲治	（図書文化社）
『総合学習のすすめ』	村川 雅宏	（日本文教出版）
『総合的な学習で特色ある学校をつくる』	今谷 順重	（ミネルヴァ書房）
『生活科から総合的な学習へ』	有田 和正	（明治図書）
『小学校「総合的な学習の時間」研究の手引き』	児島 邦宏	（明治図書）
『中学校「総合的な学習の時間」研究の手引き』	児島 邦宏	（明治図書）
『「総合的な学習の時間」をどう運営するか』	学校改革研究センター	（明治図書）
『学び方の基礎・基本と総合的な学習』	柴田 義松	（明治図書）
『小学校における総合的な学習の時間の実践』 全1冊＋ビデオ3巻（①国際理解・情報 ②環境・福祉 ③外国語会話）	埼玉県越谷市立越ヶ谷小学校	（ゆまに書房）
『中学校における総合的な学習の時間の実践』 全1冊＋ビデオ2巻（①郷土・環境・福祉・健康 ②情報・国際理解）	埼玉県杉戸町立杉戸中学校	（ゆまに書房）

この他にも教育図書、教育雑誌、ビデオ教材、各学校・幼稚園の実践研究物等も多数収集しております。ぜひ、ご活用ください。

平成11年度 広島市教育センター 教育研究発表大会の成果とお礼



夏休み半ばの8月9日、261名の先生方の参加を得て、平成11年度広島市教育センター教育研究発表大会を盛会のうちに終わりました。

本大会では、「生きる力を育む教育の創造」というテーマのもと、19の分科会で研究発表が行われました。

午前中に行われた第1部、第2部は当教育センターで半年間研修を積まれた先生方に御発表いただきました。一人一人のよさを大切にし、問題意識を明確にする、学んだことを生活に活かす、創造的な対話を意識する、自分で決定する、コンピュータを活用する等、これからの学びに必要とされる資

質や能力に着目した研究の成果が発表されました。

第3部は、指導主事により、総合的な学習、福祉・ボランティア教育、情報教育等、教育改革の動向を踏まえた先行的な研究の成果を発表しました。

最後の講演会では、RCCラジオ「ちびっこパンザイ」のインタビュアー川島由美さんに、「番組を通して感じること」と題して、子どもたちの声をもとに子どもが何を考え、何を求めているのかについてお話いただきました。子どもは変わっていない、変わったのは子どもを取り巻く大人や環境であること、学校は子どもが仲間と共に育つ最後の砦であることなど感銘深いお話でした。

先生方の御参加により、意義深い研究発表大会になりましたことを感謝し、お礼を申し上げます。



実践してみませんか

生活科教育 (小)

きこりの親方 - ネイチャーゲーム -

担当：木村

ネイチャーゲームは、1959年米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネルにより発表された、五感を使って自然を直接体験する活動です。生活科での「身近な自然との触れ合い」の活動で、子どもたちに自然への気付きをもたせるうえでとても有効なゲームです。

子どもたちがより効果的に自然を受け入れることのできる状態にもっていくための方法として、次の「フローラーニング」という活動の流れをとっています。

第1段階 カワウソの活動 (熱意をよびおこす) …遊びの要素にあふれた活発な活動

第2段階 カラスの活動 (感覚をとぎすます) …感受性を高め、注意を集中する活動

第3段階 クマの活動 (自然を直接体験する) …自然と一体感を感じる活動

第4段階 イルカの活動 (感動をわかちあう) …理想と共感をわかちあう活動

第1段階 (カワウソの活動) の例として、「きこりの親方」のゲームを紹介します。これは、きこりの親方が、弟子たちの様々な情報をもとに森の中から1本の木を探し出すものです。

準備していきましょう

技術・家庭科教育 (中)

新学習指導要領に基づいた指導計画の作成

担当：前田

新学習指導要領により、技術・家庭科は現行の11領域から、「技術分野」「家庭分野」に統合され、技術分野は「A 技術とものづくり」「B 情報とコンピュータ」、家庭分野は「A 生活の自立と衣食住」「B 家庭と家庭生活」のそれぞれ二つの内容に精選されました。

現行の学習指導要領では、必修で履修する領域や学年指定された領域があり、また、各領域ごとに標準の単位時間数の設定がありました。新学習指導要領ではそうした学年指定や時間指定の枠がはずされています。つまり、右図のような指導計画を各学校ごとの判断により立てることが可能です。

また、今年の6月に新学習指導要領への移行措置が告示され、平成12年度から新学習指導要領への移行が開始され、技術・家庭科では「全部又は一部について新中学校学習指導要領によることができる」となりま

【ゲームの手順】

① 4～10名のグループを4つ作り、木に詳しい人を一人決める。一人を親方とし、後のメンバーを弟子とする。



② 親方は、切るべき1本の木を弟子からの情報を手がかりに探さなければならない。例えば、葉の有無、幹の太さ、距離、方角など1項目ずつ調査を指示して探すゲームであることを説明する。

③ 弟子は、1本の木を決めバンダナをつける。

④ 親方は、弟子たちに次々と調査事項を指示し、弟子は、それを調べて報告する。親方は、メモしてもよいが、弟子たちはメモすることができない。

⑤ 調査が終わったら、決めた木に付けてあったバンダナを取り外し、これだと思ふ木を当ててもらおう。

⑥ 答え合わせをする。間違っていた場合は、弟子たちに再度、調査結果を確認したり、ヒントをもらう。毎年、ネイチャーゲームを生活科実技講座で実施しています。参考資料等お問い合わせください。

す。

さらに、平成12年度の第1学年の指導にあたっては第3学年が新学習指導要領の全面実施の年にあたるため、卒業までに新学習指導要領に規定されているすべての生徒に履修させる内容(「技術分野」「家庭分野」のA及びBの(1)から(4)までの内容)を履修させるように、3年間を見通した指導計画を作成することが必要になってきます。

今年度中に、新学習指導要領の内容について研究を進め、それに則した指導計画の作成を進めていきましょう。

『ある内容を3学年にわたり履修させる場合』

学年	指導内容		
1 (70時間)	技術A (1)~ (4)	技術B (1)~ (4)	家庭A (1)~(4)
2 (70時間)			家庭B (1)~(4)
3 (35時間)		(5/6)	家庭 選択

のアイデア



挑戦してみましょう

理科教育 (中)

観察、実験のCD-ROM教材の制作

担当：松浦

観察、実験などが生徒にとって充実したものとなるよう事前に必要なことを学ばせたり、直接経験が困難な観察、実験などについて学ばせたりするため、従来から自作のビデオ教材が用いられてきました。このようなビデオ教材は、一斉指導には適していても、個々の生徒の興味・関心や技能等の実態に応じて利用するには難しい面がありました。

こうしたビデオ教材の課題を改善する方策の一つとして、ビデオ教材のCD-ROM化があります。昨年度から中学校に整備されているコンピュータと周辺機器を用いると、生徒一人一人が個別に自分の学習状況に合わせて利用できるような観察、実験教材などの映像や音声を含むCD-ROM教材を制作することができます。

CD-ROM教材の制作手順は次のとおりです。

- ① CD-ROM教材に必要な内容を決める
指導目標に照らして、CD-ROM教材に必要とされ

る観察、実験などの内容を決めます。

- ② CD-ROM教材の構成を考える
映像や音声をどのような時間や順序で提示するのかなどについて、教材の構成を考えます。
- ③ 観察、実験などの様子を録画して編集する
実際に観察、実験などを行って、その様子をビデオで録画し、必要に応じて編集します。
- ④ ビデオのデータをコンピュータに取り込む
ビデオキャプチャ機器を用いてビデオのデータをデジタル化し、コンピュータに取り込みます。
- ⑤ CD-ROM教材として編集する
取り込んだデータを、②で考えた構成になるようソフトウェアでCD-ROM教材として編集します。
- ⑥ CD-Rにデータを記録する

完成したCD-ROM教材のデータをCD-Rに焼き付け、CD-ROM教材として完成させます。

CD-ROM教材は、何度利用してもメディアの劣化がほとんどないという優れた特性をもっています。

なお、教育センターには、ビデオ編集機器、CD-Rドライブ、CDデュプリケーター等の機器が整備されておりますので、是非ご活用ください。

コンピュータを学習の道具にしましょう

情報教育 (小・中・高)

「総合的な学習の時間」で情報教育の実践を

担当：神津

小学校、中学校、高等学校を通して育成すべき情報教育の目標は、情報活用能力として

- (1)情報活用の実践力
 - (2)情報の科学的な理解
 - (3)情報社会へ参画する態度
- の三つに整理されています。

このうち、「情報の科学的な理解」や「情報社会へ参画する態度」の中の専門的知識は、中学校では技術分野で、高等学校では、新教科「情報」で扱うこととなりますが、「情報活用の実践力」は、あらゆる教科や「総合的な学習の時間」を通して育成される必要があります。「情報活用の実践力」は、「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」であり、「総合的な学習の時間」の自ら課題を見つけ、自ら学

び、自ら考え、問題解決する資質や能力などを育てるねらいそのものです。

児童生徒が「総合的な学習の時間」で自分の課題を追究する時、いろいろな情報が必要になります。児童生徒にとっての興味・関心のあるものはその時期に最新の情報が必要になってくるので学校の図書や、教師の情報だけでは児童生徒のニーズに対応できなくなります。この時、インターネットは強力な味方になり、コンピュータは学習の道具として必要不可欠なものになります。

また、得られた情報を整理・分析する時、コンピュータを活用することも有効なことが多いのです。

さらに、まとめた成果を発表する時、OHP等と共にコンピュータのプレゼンテーションソフトを使った発表の仕方を習得させることも重要となるのです。

このように、「総合的な学習の時間」において課題を追究する際、学習の過程を通して、情報教育の目標も達成することができるのではないのでしょうか。

教育センターひろば

研究協力員・研究協力校

教育センターの指導主事が前掲（P.4）のような教育研究を進めるに当たり、次の先生方または学校に研究の協力をお願いしています。

平成11年度 研究協力員

研究領域 (担当者)	研究協力員名	所属校・園
学習指導	榎野 純	幟町小学校
	森下 幸子	千田小学校
	尾形 慎治	深川小学校
	藤村 和彦	
生徒指導	高木 浄美	上緑井幼稚園
	砂原文男	白川 香 安東幼稚園
	木村 正信	大塚 徳 竹屋小学校
	名和原恵理	上之園 公子 観音小学校
	首藤 龍磨	惣明 照雄 古市小学校
		信重 倫子 江波中学校
		濱本 賢二 宇品中学校
		林 宗男 亀山中学校

平成11年度 研究協力校

研究領域 (担当者)	研究協力校	研究推進 代表者
教育課題	似島小学校	川口 大輔
	可部南小学校	愛甲 良文
	中広中学校	栞田 裕司
	長東中学校	香川 豊志

教員長期研修生 (平成11年10月～平成12月3月)

今年度後期は次の8名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- 生活科教育：井原 穰子 (五月が丘小学校)
- 家庭科教育：小倉 亜砂 (安北小学校)
- 教育相談：下山 しおり (亀山小学校)
- 数学科教育：山崎 哲男 (翠町中学校)
- 外国語(英語)科教育：福崎 幸子 (仁保中学校)
- 障害児教育：大本 市郎 (国泰寺中学校)
- 地理歴史科教育：正原 直行 (広島商業高等学校)
- 幼稚園教育：都甲 得恵 (上温品幼稚園)

広島市立学校教育研究生

(平成11年7月～平成11年12月)



	研究部門	名前	所属校
小学校	国語科教育	栗栖 環	大町小学校
	社会科教育	岡本 典久	大河小学校
	算数科教育	島本 圭子	藤の木小学校
	理科教育	西岡 律子	井口明神小学校
	図画工作科教育	竹本 康子	安北小学校
	特別活動	笠井 典子	井口台小学校
	障害児教育	福庭 由也	可部小学校
	保健管理	小下 澄枝	小河内小学校
中学校	理科教育	鈴木 裕志	段原中学校
	音楽科教育	藤川由宇子	可部中学校
	技術・家庭科教育	宝澤 竜三	観音中学校
	保健体育科教育	松田 裕二	亀山中学校
	英語科教育	奥本 弘佳	船越中学校
高	教育工学	田中 利明	五日市南中学校
幼	生徒指導	吉野 純子	基町高等学校
	幼稚園教育	山根 真美	矢賀幼稚園

編集後記

実りの秋、皆様方の教育実践も豊かな実りを結びますように。教育センターも、皆様方のお役に立てるよう支援していきます。

題字 広島市立緑井小学校長 井西 敏恵
表紙絵 広島市立五月が丘中学校長 木村 力太

編集・発行/広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号

TEL(082)223-3563

FAX(082)223-3580

Email center@education-c.educity.hiroshima.jp

広X6-1999-059(3)